

第一中学校区 小・中連携子ども育成プランの具体的内容

小・中学校共通で目指す児童・生徒像 社会に役立つたくましい人間【児童・生徒】		設定の理由 生涯にわたって「たくましく生きる力」の基礎を培うとともに、国際社会の一員として協調しながら共に生きることが大切であり、一人ひとりが役割を果たし役立つことが求められていることから設定した。	
具 体 的 な 連 携 方 法	カリキュラムの連続	・ 9年間を通した各教科の円滑な接続	一中校区として生徒に身に付けさせたい能力や、資質を話し合い、9年間を見通し、各教科ごとの円滑な接続を図る。
		・ 外国語教育カリキュラム	目黒区外国語教育モデルカリキュラムを基に3校共通の外国語カリキュラムにより、小・中のスムーズな接続を検討する。
		・ 自然宿泊体験教室学習計画	小学校4年生から中学校1年生までの自然宿泊体験教室の学習計画を作成し、計画的・系統的な指導の一貫性を図る。
	児童・生徒の交流	・ 小・中交流ふれあい事業	中学生と小学生が合同の「子ども会議」を実施し、いじめ問題について一緒に考える。 中学生が小学校に出向き、中学校の生活を紹介する。小学生が興味をもったことを質問できる機会を設ける。
		・ 漢字検定、数学検定の実施	3校合同で検定に参加する機会を設け、小学生と中学生が目標をもって取り組む機会を設ける。
		・ 小・中連携あいさつ運動 学校のHPを活用して取組を発信する	中学校と小学生が合同であいさつ運動を年3回行う。 また、活動内容等をHPを使って発信し、小中交流を保護者や地域に知ってもらう。
		・ 児童の中学校体験、部活動体験	中学校生活について理解を深める一中紹介で部活動体験・授業体験を行い、小・中学生の交流を深める。
		・ 地域行事の参加	「ふれあいコンサート」、「菅刈公園フェスティバル」、「こまばのまつり」など、菅刈住区、駒場住区などの地域行事に積極的に参加し交流を深める。
		・ ボランティア活動の充実	中学生と小学生が協同して行うボランティア活動を通して、社会の一員であることを自覚し、互いに支え合う社会の仕組みを実感するとともに、共に価値ある大切な存在であることを実感し豊かな心情を培う活動を行う。

	教員間の相互理解	・小・中連携の日 (小・中交流授業)	年3回程度、小・中学校相互のねらいをもった活動を小・中学校の教員が連携して計画し、授業実践を行う。
		・中学校教員による 出張授業等	中学校教員の専門性を生かして、小学校4・5年生を対象に出張授業を定期考査等の時間を活用して行う。また、中学校紹介の際、体験授業も行う。中学校教員は授業実践を行うとともに、小学校の様子を参観する。小学校教員は、専門性を生かした授業実践を参観し、研修を行う。
		・小・中連携連絡会	「小・中連携子ども育成プラン」の共通理解、次年度の改訂に向けての協議を行う。また、生活指導の情報交換等を行う。
		・校長、副校長、教務主任・ 生活指導主任の連絡会	合同校長会、合同副校長会の後、また、教務主任会、生活指導主任会の中で校区ごとの情報交換を行う。
	接続期の連携	・児童対象の中学校説明会	小学校6年生を対象に中学校へ訪問した際の生徒会による説明会を行う。小学校6年生が抱える中学進学への不安などを解消する。一中紹介文書を配布する。
		・保護者対象の中学校説明会	従来の入学説明会だけではなく、副校長が適宜個別に説明するなど、保護者対象の中学校説明会を積極的に行い一中紹介文書等を配布する。
		・担任、S C連絡会	中学進学に当たって第一中学校進学者に関する情報交換を担任だけではなく、スクールカウンセラーと共に行う。進学前だけではなく、進学後の様子についても連絡会を開催し、指導の共通理解を図る。
		・接続期の指導	1月～3月；小学校6年において、中学校への円滑な接続を図るため中学校訪問、卒業に向けての準備等指導を行う。 4月～6月；中学校1年において、円滑に中学校生活が送れるよう丁寧な学校生活のガイダンス、学級担任との個人面談、定期考査に向けての学習の仕方などを指導する。
	家庭・地域との協力	・PTA、保護者との連携	校区による地域教育懇談会の開催、地域行事などでの連携を行う。
		・いじめ問題を考えるめぐろ こども会議	いじめ防止のためのいじめ問題を考えるめぐろこども会議を実施する。児童・生徒の意見交換の場や事前・事後の取組を3校が連携して行う。
		・地域人材の教育活動への 参加・協力	小学校は2校共通した地域人材を活用した体験授業の実施や小・中学校の交流授業で参加・協力を求める。